

平成 24 年度継続事業に関する継続評価書

- 研究機関 : (株)国際電気通信基礎技術研究所、NTT、島津製作所、積水ハウス、慶應大学
- 研究開発課題 : 脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(高精度脳情報センシング技術・脳情報伝送技術、実時間脳情報抽出・解読技術及び 脳情報解読に基づく生活支援機器制御技術)
- 研究開発期間 : 平成 23 ～ 26 年度
- 代表研究責任者 : 石井 信

■ 総合評価 : 適

(総論)

概ね計画通りに進んでおり、次の計画もよく練られている。引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 取り組みの中から新たなシーズが生み出されることも期待。
- 具体的に達成したものを客観的に評価できるような形で報告してもらうことが望ましい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

概して予定通りに進んでおり、脳情報を用いたネットワーク型 BMI に向けた取り組みがうまく立ち上がっている。

(コメント)

- 具体的な技術の達成度を示す材料が不足していた。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

予算計画書等に則り、適正な執行が行われていると考えられる。

(コメント)

- 求めに応じて、不要な支出について検討し、資金の無駄な使用をおさえている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

新しい技術の導入などが積極的に計画されており、これらが着実に実現されていくことが期待される。

(コメント)

- 脳情報を用いたネットワーク型 BMI に向けた取り組みとして有効。
- 目標についてより客観的指標(エンドポイント)の設定が必要。
- 停電対策等、安全対策についても初期の開発段階から考慮して欲しい。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

減額に向けた取り組みがなされており評価できる。

(コメント)

- 概ね適切であるが、進行に伴い柔軟に対応することが望まれる。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 9点

(総論)

進行に伴って適切に weak point をカバーする人事などを行っている。

(コメント)

- 企業が継続的に関与しており評価できる。
- より広がりを持たせるための実施体制の修正自体は評価できるが、主たる取り組みが不明瞭になっていないような配慮も必要か。